

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	407C	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：407C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

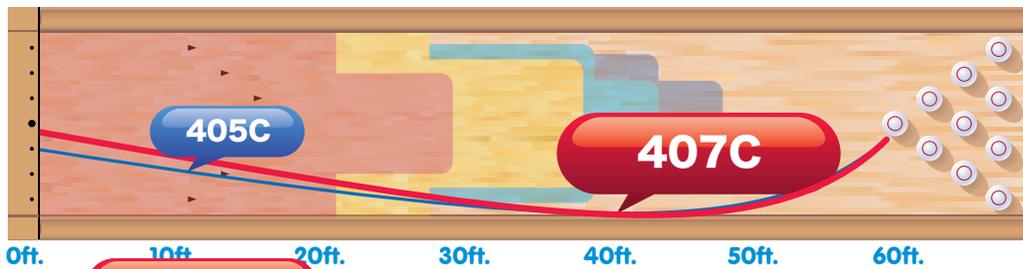
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：405C

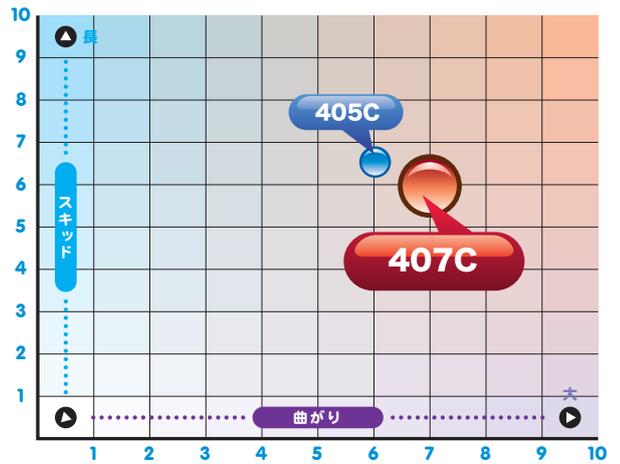
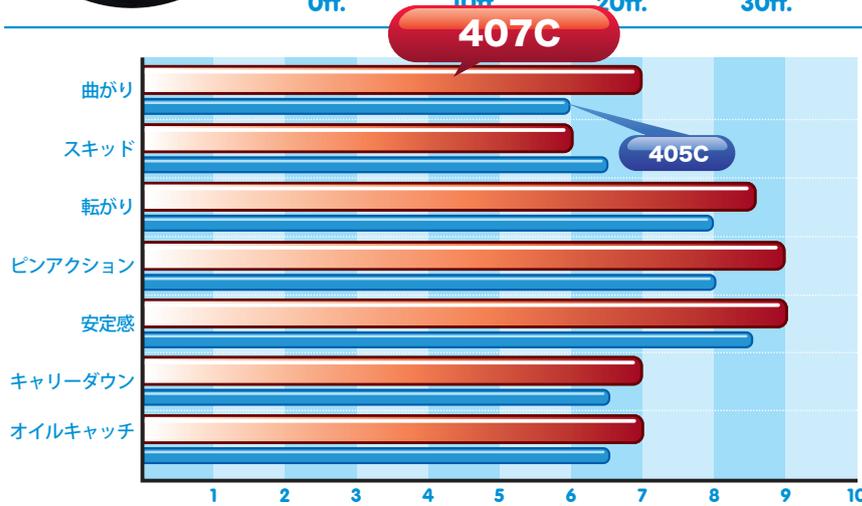
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

昨年ABS専属の川添プロの活躍を支えたトラック社”4”シリーズ。キネティック、505C、そして”4”シリーズすべてに共通しているのがみなさんご存知のシャトルコアであることは言うまでもありません。トラック社はすでにシャトルコアに変わるコアを模索しており、唯一日本限定のインターナショナル製品だけに使用を許されたこともトラック社とABSのパートナーシップによるものです。

”4”シリーズで使用できる領域ギリギリの粘りのあるカバーストック。走りの中にも安定した曲がり始めを感じ、フリップ状に柔らかく切れるイメージのリアクションは、”C”の頭文字が持つコントロール性能を極めた、私の中では今まで揺るがなかった「キネティックを凌駕する」トータルバランスが優れた性能であると言えます。

対応コンディションはミディアムが中心ですが、幅を取り始めた際のオイルに対する安定感、何と言っても走り系に見られる硬めのピンアクションとは無縁の柔らかいピンアクションは、ハイパフォーマンス級と肩を並べ比較できるほど優れているのを感じていただけるでしょう。

キネティックをこよなく愛し、使い続けた方はこの407Cを試すことに価値があり、スキッド・キャッチ・コントロール性能、ピンアクションに至るまで完成度の高い仕上がりに、王道であるキネティック以上のものを感じて頂けると信じています。この407Cは前作ビックセールスの408Cに勝る活躍がプロトーナメントのみならず、リーグや大会等で発揮され、必ずや多くの人々から再販を望む声を聞くことでしょう。

特記事項

スキッド・フック・ロールのトータルバランスは必見。
”4”シリーズの伝説を塗りかえられるこの407Cは、貴方にとって最強の武器となり、手放せないボールとなるでしょう。